

連続討論会「東北大大学 未来を考える 21 の論点～心豊かな社会をつくる総合知～」

趣旨

戦後日本の大学教育で重視されてきた「専門知」の修得は、高度経済成長期にはその目的を曖昧なままにしても、確かに効率的かつ有効に機能を発揮した。しかし、欧米にキャッチ・アップした後の、現在に至る日本の停滞状況は、後に続く国々の高等教育の普及に伴って日本の立場が低下し続けてきたことに理由を求めることができるが、それだけではない。折に触れ各界の指導者たちからも、教養教育の重要性が指摘されてきたところであるが、関係者が改めて議論して、教養教育の目指す方向を自ら見出す時期に来ていると言えよう。

私たちは、大学課程の修了生が、人文社会系・理工系を問わず、いずれかの「専門知」を修得する他に、その専門性を活かすため、「社会課題の解決」「持続可能で心豊かな社会の創造」、「善く生きること」など「総合知」の重要性を理解する「賢明な人」であろうとすることを目指すことが望ましいと考える。

そこで本討論会では、毎回、最初に、それぞれの分野の専門家が、「専門知による社会課題の解決」の限界を紹介することに加え、「社会の役に立ちたい」と願っている多くの参加者が、

- ①社会課題の“掘り起こし”能力(can): 「何ができるのか」：参画できる確信をもつ、
- ②社会のあるべき姿・理念(must) : 「何をなすべきなのか」：進むべき目標を探求する、
- ③人間性の形成・正義感・信念(will): 「何を望みうるのか」：信念に基づき進み続ける

を自ら主体的に考える上で参考とするための議論を行う。これらに触れる事によって、一人でも多くの参加者が、深刻化する様々な社会課題に「共通する構造」を解決する方向性を自ら見出すと共に、長期展望に基づいて「課題解決の方法論」を議論し具体化することによって、「持続可能で心豊かな社会」の創造に貢献する可能性が膨らんでくることを期待するものである。

日 程：第 7 回 2026 年 1 月 29 日（木）18:00～19:30

形 式：講演者が最初に 20-30 分間講演、その後、全体討論

資 料：「未来を考える 21 の論点～心豊かな社会をつくる総合知～」の冊子体の PDF ファイルから、毎回の講演内容を WEB で提供

参 加：WEB 形式

対象者：大学生・大学院生(学び)、若手教員(教育、研究)を主たる対象とするが、一般も含める。

参加費：無料

受 付：Google Form より事前参加申し込み

主 催：東北大大学 工学研究科 工学系研究企画室

共 催：公立大学法人 宮城大学

協 力：科学者の卵養成講座

後 援：株式会社 河北新報社

協 賛：公益財団法人 仙台応用情報学研究振興財団

問合わせ先：東北大大学工学研究科 工学研究科研究推進課

〒980-8579 仙台市青葉区荒巻字青葉 6-6 TEL 022-795-5807

e-mail (研究推進係) eng-ken@grp.tohoku.ac.jp

連続討論会 第7回「未来を考える21の論点～心豊かな社会をつくる総合知～」

【日 時】2026年1月29日（木）18:00～19:30

【開催方法】WEB形式

【講演題目】「なりたい自分を主体的に実現する「課外活動」」

【講 演 者】永富 良一

(産学連携機構イノベーション戦略推進センター・東北大学名誉教授)

【参加受付 Google フォーム】

<https://forms.gle/72wGqrHPiH4dt2KHA>

【論 点】

要約：課外活動は自分でやりたいことをみつけ、そのコミュニティの中で自分の居場所・役割を得て、なりたい自分を実現していく活動である。挑戦により様々な失敗や人間関係の葛藤などの様々な試練を乗り越えコミュニティの活動目標や自分でたてた目標を達成する悦びを経験する。課外活動にどのような価値や課題があるかを考える。

【キーワード】主体性、承認欲求、スポーツ、コミュニティ、伝統、アイデンティティ、未知への憧れ、困難を乗り越える経験

【スケジュール】

18:00～18:10

・連続討論会についての全体説明：金井 浩

18:10～18:40

・講演会

18:40～19:25

・討論会

19:25～19:30

・まとめ：総合司会

【座長】

工学研究科フィールドデザインセンター長 本江正茂准教授

工学研究科工学系研究企画室 金井浩特任教授

連続討論会 第8回「未来を考える21の論点～心豊かな社会をつくる総合知～」

【日 時】2026年2月12日（木）18:00～19:30

【開催方法】WEB形式

【講演題目】「大学で何を学ぶか—調査を踏まえ伝えたいこと」

【講 演 者】風間 聰（東北大学大学院工学研究科）

【参加受付 Google フォーム】

<https://forms.gle/72wGqrHPiH4dt2KHA>

【論 点】

要約：大学では、未来を拓く力を育むことを目的とした講義やプログラムが開講されている。しかし、その活用は十分とは言えない。その根源は、初等中等教育とは異なる「大学教育の意義」が十分に理解されておらず、大学教育で求められる「学びの転換」が実現していないことがある。この問題には教員側にも責任があるが、学生には、社会動向を踏まえて将来のキャリアを真剣に考え、そのために必要な学びを整理し、主体的に取り組む姿勢が求められる。就職活動では、コンピテンシーやコミュニケーション能力が重視される。理系学生には、論理的思考力や情報分析力などが基本的な能力として求められる。研究を続けることを希望する学生には、博士課程への進学を強く奨めたい。

【キーワード】

学びの転換、現代的素養、未来を拓く力、キャリア教育、就職準備、博士課程進学

【スケジュール】

18:00～18:10

・連続討論会についての全体説明：金井 浩

18:10～18:40

・講演会

18:40～19:25

・討論会

19:25～19:30

・まとめ：総合司会

【座長】

工学研究科フィールドデザインセンター長 本江正茂准教授

工学研究科工学系研究企画室 金井浩特任教授

連続討論会「東北大學 未来を考える 21 の論点～心豊かな社会をつくる総合知～」の内容

第Ⅰ部 教育の本質

- ☆第1章 大学における教育と研究の意義は何か（金井 浩）
- ☆第2章 大学で何を学ぶか—調査を踏まえ伝えたいこと（服部徹太郎、風間 聰）
- ☆第3章 未来を拓く教養教育～不確実な時代の羅針盤（山内保典）
- ☆第4章 初等中等教育の現状と課題～情報化を考える（堀田龍也、長濱 澄）

第Ⅱ部 自然と人と文化

- 第1章 新しい価値観に根差した持続可能社会の実現（吉岡敏明、齋藤優子、西山 徹）
- 第2章 里山での心豊かな暮らし（小倉振一郎）
- ☆第3章 これからの「食農教育」を考える（伊藤房雄）
- 第4章 「ふるさと」が問いかけるもの～食料・労働力・電力の供給地から共生共死する共同体へ～（尾崎彰宏）

第Ⅲ部 科学と人

- 第1章 感染症にレジリエントな社会の構築（押谷 仁）
- 第2章 原子力の利用と放射性廃棄物（新堀雄一）
- 第3章 日本の「モノつくり」復活への大学の責務（佐々木保正、森谷祐一）
- ☆第4章 研究の本質を突くアントレプレナーシップ（長坂徹也、池ノ上芳章）
- ☆第5章 イノベーションを育む土壌（秋田次郎）

第Ⅳ部 社会と人

- 第1章 新自由主義を超えて（細谷雄三）
- 第2章 正規雇用と非正規雇用の格差を乗り越える（佐藤嘉倫）
- 第3章 創未来インフラ（久田 真、鎌田 貢）
- 第4章 少子・高齢化の含意と科学的解明（吉田 浩）
- 第5章 少子高齢社会における社会保障の持続可能性（藤森研司）
- ☆第6章 デザイナーシップを發揮せよ（本江正茂）
- ☆第7章 なりたい自分を主体的に実現する「課外活動」（永富良一）

第Ⅴ部 学びの「始末」

- ☆最終章 心の豊かさを求めて～私たちの使命・倫理（座小田豊）

説明

1. 上記は、「未来を考える 21 の論点～心豊かな社会をつくる総合知～」の冊子の目次であり、討論会は、討論会の開催順番は上記の通りではない。
2. 主として教育関係（☆印）と、社会課題関係（無印）に分ける。
3. 上記の（ ）内は、各回の講演者。
4. 第1回から第3回の冒頭の専門家からの講演は録画され、後期、東北大學大学院での高度教養科目「科学リテラシー養成基礎」の講義に活用される。